

令和３年度第２回和光市史平成版編集委員会議事録			実施日：令和３年６月２９日（火）	
16:00～18:00				
場所	ZOOM 会議	出席者	編集委員：宮瀧先生、佐々木先生、磯、黒沢 和光市(事務局)：茂呂課長、鈴木様、石田様、中岡様、相田様 ぎょうせい：徳島	
議題	プレ初校（「和光市の平成をたどる」）編さん委員の意見を受けての内容検討		配布物	各委員からの意見聴収の資料一式 （ZOOM 会議に伴い、事前に和光市より、送付済み）
各編さん委員からの意見について協議 ・今回も前回同様、各編さん委員からの意見の内容を踏まえ、その対応案について事務局から説明（和光市：石田様）。今回は、委員から意見が多く寄せられたことを踏まえ、事務局対応案の中から特に協議すべきことをピックアップしながら、宮瀧先生、佐々木先生、編集委員より質問・確認、協議を行った。 ・鈴木敏弘委員の「平成年間の遺跡発掘の成果が反映されていない」という意見について議論。この意見に対しは、全委員で目次構成案を再度確認した上で協議し、結論としては、「和光市の歴史（かこ）をふりかえる」で掲載予定だったトピックス「考古資料の新発見相次ぐ」を今回の「和光市の平成をたどる」の方に移動することとした。 また、今回の原稿が「資料編の編年作業の基礎資料のようである」という意見に対しては、和光市の平成を扱う部分は、今回の「平成をたどる」だけではなく「現在（いま）をうつしだす」もあり、「歴史（かこ）をふりかえる」を含め３部門で構成されている。さらに「特論」「トピックス」などで時代の特徴に関する重要部分を記述するコーナーもあり、「平成をたどる＝編年体＝時代の流れ、読みやすく平成をたどる通史編」「現在をうつしだす＝平成の分野別編」という構成であるので、現状スタイルのままで進行することを確認した。 ・年表の月日の記述については、原則、月までの表記で問題がないということで全員一致した。ただし、周年記念日、開校記念日など日付自体が、歴史上重要な意味を持つ事項については、入れる方向で編集することとした。事務局より各委員に送った通知（令和３年２月１７日付）も確認し、「必要に応じて月日を記載する」と触れており、上記のように重要事項については入れる方向とし、矛盾は生じないことを全委員で確認した。 ・牧田委員の意見より、「その時代で使っていたが現在は使っていない言葉」について、今後どう扱うか検討。ゲラが進行した際に検討が必要の旨、確認（例：福祉分野で出てくる身体的なものや、その当時の施策では問題がなかったが現在だと違う表現になっているものなど）。ゲラが進行した際に、表現として適切かどうか、判断する方向で一致。 ・また、患者数などの数値についてどの程度入れるべきか協議。結論として「数字を入れることで内容に深みが出るのであれば、入れるべき。ただし、出典先による数値の違いなどでリスクを伴うのであれば入れなくても良い」方向でまとまる。 「資料的に価値があるものについては、記入が必要。ただし、数字の出典先として不安な場合は入れない方がいいのではないか」（宮瀧先生） 「数字があることで具体性を帯び、読者が内容として入りやすくなるのは事実だが、数字を入れてリスクになる場合は入れなくてもいいのではないか」（佐々木先生） 「東日本大震災の例をとっても、例えば亡くなった方の人数が資料によってかなり違う例がある（カウントの仕方等）。数字については慎重に記載する必要があるかと思う」（磯）				

・監修の佐々木先生より、「市民の反応をもう少し入れた方がいいのではないか」という意見があり現在作成中の「和光市の現在（いま）をうつしだす」での原稿で、分野ごとに反映できるところは反映をすることとした。また、「平成でどう変わったかわかるように、例えば昭和末と平成末で比較するのはどうか」という意見があり、全員賛成で、今後ゲラに反映していく方向になる。「例えば、三種の神器という言葉一つでも、時代によってその内容が異なっている例があるので、比較できると、より読者も受け入れやすい」（宮瀧先生）。比較対象については、今後検討していくこととした。

【今後の予定】

- ・7月8日（木）に和光市様、ぎょうせい（黒沢、磯、徳島）とで、全体の流れの確認（執筆面・スケジュール面）と追加取材の日程等の打ち合わせを行う。
- ・7月9日（金）に、本日の協議内容の報告を含めて和光市史編さん委員会を書面で開催する。
- ・次回第3回の和光市史平成版編集委員会の予定は、11月2日（火）です。対面かZOOM会議かについては、日程が近づいた時点で決定する。

内容は、プレ初校「和光市の現在（いま）をうつしだす」の編さん委員からの意見について協議です。

[以上]